



TITLE:

花山だより(2月)

AUTHOR(S):

月斗

CITATION:

月斗. 花山だより(2月). 天界 1936, 16(180): 225-225

ISSUE DATE:

1936-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167193>

RIGHT:

花 山 だ よ り (2月)

2月4日は朝來の猛吹雪で、其上雷鳴さへ景氣を副へて、忽ち東山一帯は銀灰色に埋められてしまつた。花山の積雪量1尺8寸、自動車は止まるし臺員一同全く抜き差ならぬ破目になつた。永らく水攻めに會つた宿舍員は雪風呂を沸す等の珍風景、宿舍横には雪達磨ならぬ雪の天文臺が急造された。稻葉少尉殿は長靴に拍車付で悠然と來臺されたが、深靴の無い臺員は急に長靴調達に走り廻つたさうである。柴田氏は今次の火球を尋ねて、鳥取、岡山方面に出張されたが、會員本田氏其他の御厄介になり大體消滅點の位置も確定して20日歸洛、21日正午流星調査を報告された。木邊氏の製作中の日蝕用の鏡は其の第1號が完成し13日花山に持參、結果は良好らしい。早速筒の製作を依頼、平面鏡無しに撮影する計畫の下に目下製作は着々進行しつつある。一寸類例の無い木製の反射鏡で、出來上り次第に實驗する事になつてゐる。ソ國の Gerasimovic 氏から臺長への來信に依れば彼國花山と同様な計畫の下に、オムスクを中心として、6個所でゴロナの連續觀測を行ふ由。日本か蘇國か？それが成功するか興味深い問題である。

天文臺員として、又協會會計として多年活躍されて來た高城氏は最近新家庭を持たれた事を報知しましたが、其後夫人の健康思はしからず、遂に2月4日大阪に於て逝去されました。誠に御同情に耐へない次第で御哀悼の辭を捧げます。又前天文臺助手森川氏の御令嬢は突然19日他界されました。誠に御哀悼の極みであります。更に本學講師として、又花山天文臺太陽課主任として、自ら分光太陽鏡の製作に、同課の研究總てを擔任せられて活躍されて來た上島昇理學士は2月29日病院にて遂に立たれず、誠に哀惜に耐へないものがあります。日頃無口で不言實行主義の方で、理論實驗共に秀で、未だに研究も未發表の事とて空しく去られた事は教員一同誠に悲痛の極みで、故人の設計された生駒山天文臺の太陽館の實現も待たず一入感慨無量なるものがあります。打續く訃音に筆者惜別の情にたへず、只管に故人の御冥福と遺族の御安康を御祈り申し上げます。(3月1日・月斗生)